

G10 閣僚会合 共同コミュニケ 2008年6月5日 パリ

本日、パリにおいて、OECD 閣僚会合のマージンで、G10閣僚会合が開催された。閣僚はドーハ・ラウンドの現状を評価し、農業交渉の改訂モダリティ案に関する意見交換を行った。

G10 閣僚は、ドーハ・ラウンドの年内妥結に向けて責任を持って関与していくことを再確認した。交渉妥結は現在の世界経済にとって大いなる刺激となるであろう。

G10 閣僚は、5月19日の再改訂テキスト発出に当たっての議長努力を多しつつも、現在の議長テキストでは、未だ主要論点について改善の必要があると認識し、また、野心の水準が高まっていることについて懸念を示した。閣僚は上限関税の導入への反対、重要品目の適切な数と取扱い及び特に高い階層での関税削減率が G10 の優先事項であることを再度確認した。

また、閣僚は、交渉における包括的なアプローチの必要性を強調し、NAMA、サービス、ルール等のその他の交渉分野においても更なる進展が必要という考えを共有した。

閣僚は、食料純輸入国、特に G10 諸国の食料安全保障に深刻な影響を及ぼす最近の食料危機についても深い懸念を表明した。ドーハ・ラウンドが開始されて以来、G10 各国は、本交渉において、非貿易的関心事項、特に食料安全保障の必要性について強調してきたが、最近の世界食料危機により、これらの主張の重要性が改めて確認された。さらに、閣僚は、食料の国際価格をさらに押し上げることで状況を悪化させ得る輸出規制についても議論し、この問題の規律強化の必要性について強調した。

閣僚は、一括受諾の原則の下、農業交渉3分野間、また、ドーハ・ラウンドにおける交渉の全分野間においてバランスの取れた成果のみが、加盟国から承認を得ることができると強調した。

閣僚は、交渉の次の段階について議論し、戦略的に重要となる事項について検討した。G10 閣僚は、農業交渉で良い進展が見られたと認識した。閣僚は、全加盟国に対し、各国の立場の差異を埋め、可能な限り早く本ラウンドが成功裡に終わるよう、必要な努力を行うことを促した。